

【五月の言葉（令和七年）】

この世との

縁がなくなれば、

命も終わる

「なごりをしく思へども、娑婆の縁尽きて、ちからなくして終はるときに、かの土へは参るべきなり」（歎異抄）

「どんなに名残惜しくても、この世との縁が尽きればどうすることもできず命も終わり、浄土に往くことになる」と親鸞は述べています。

どれほどこの世にしがみついても、いつか必ず往生する日がやってくる。この世との縁がある間、どのように生きるのか、が、大切であると親鸞は説いています。

この世の縁がなくなれば、誰でも死を迎えます。私たちがそれをコントロールすることなどできません。ですから、日々を精一杯に過ごすこと。それによって、今生かされていることへの感謝の気持ちも湧いてくるものです。